

鉄筋組立て技能検定の実技試験

2月11日・12日に実施

関西鉄筋工業協同組合は2月11日と12日の二日間、堺市美原区の竹中工務店・西日本機材センターで平成22年度・後期「鉄筋組立て技能検定実技試験」を実施しました。

実技試験は曲げ加工された鉄筋を使用し、配筋図と仕様に基づいて基礎、柱、基礎梁の取り合い部を組み立てるもので、試験の標準時間は1級が1時間40分（延長30分）、2級が1時間20分（同20分）となっています。

今回の試験には大林組、鹿島、清水建設、鍛冶田工務店のゼネコンのほか構造設計事務所、工科高校の関係者らが見学を訪れ、組合関係者から説明を受けながら組立作業を熱心に見入っていました。

また、組合の副理事長でもある戸田裕雄・首席検定委員（戸田鉄筋）をはじめとする15人（補佐委員含む）は配筋精度や仕上がり、結束忘れなどについて厳正に審査し、採点を行っていました。検定委員も兼ねる岩田正吾理事長は「受検者が減少しているのは職人が離れてしまっていることや、職種としての魅力がなくなっているから。職人がメリットを感じ、施主が重要だと認識してくれる資格制度にしていく必要があるのではないか」と話しました。実技試験の合格者の発表はすでに終わっている学科試験、施工図作成作業の結果と同じく3月15日に行われます。

今回の検定委員及び補佐委員は次の通り（敬称略）。

戸田裕雄（戸田鉄筋）、三島一郎（三島鉄筋建設）、原田浩一（近畿施設工業）、岩田正吾（正栄工業）、西岡義克（西岡鉄筋工業）、高岡宏（ヤマシタ）、叶順治（KANO CENTER）、田中勲（関西スチールフォーム）、又野吉史（又野鋼業）、田村晃一（田村工業）、恵谷信（恵谷鉄筋）、川崎隆志（川崎組）、初岡憲（コーヨースチール）、富田勇（富田興業）、鎌田厚（鎌田鉄筋工業）。

